

**② 入試区分**

広東省編入

**③ 出題科目**

小論文

**④ 出題の意図**

英語の読解力に加え、正確な日本語を書く能力を測定する意味で前半に英文の日本語による要約を課し、その後日本語で自分の意見を述べてもらう設問により、論理的思考力および現代社会を取り巻く問題（本問の場合は食品破棄に関するもの）に関して自分の意見を述べる能力を測定することを目的とした。

I 次の英文(1)(2)の内容を日本語で要約して書き、その内容全体に関する自分の意見を日本語で書きなさい。いずれも字数制限は設けませんが、解答欄の枠内におさまるよう、箇条書きではなく文章でまとめて下さい。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(Takaaki Kumazawa他, *Ambitions Elementary*. 金星堂)

番号:

氏名：

I

(1)の要約 \* 日本語で書くこと。

(2)の要約 \* 日本語で書くこと。

小計

番号:

氏名：

I(続き)

英文(1)(2)全体に関する自分の意見 \*日本語で書くこと。必要に応じて行替えしてもよい。

小計	
總計	

I

(1)の要約 \* 日本語で書くこと。

アメリカや日本などの先進国が世界の食料の大半を生産しているが、同時に大量の食料を無駄にしている。その無駄にしている量は毎年何億トンにもなる。アメリカでは生産された食料の 3 分の 1 が無駄になっている。食料の生産にはお金などがかかるため、食料を廃棄することはお金を捨てるようなものであり、専門家は廃棄された食料は毎年 1 兆ドルにのぼるという。もしこの無駄を防ぐことや避けることができれば、その経済効果は大きなものになるだろう。

(2)の要約 \* 日本語で書くこと。

誰も食料を無駄にしたいわけではないが、無駄を避けられないこともある。食物の生産には複雑なプロセスがあり、高度な技術で非効率を防ぐことはできても無駄にすることは防げない。将来、データを分析することでどのような食料がそのぐらいのお店で必要とされているかがわかるようになると、無駄を排除するのに役立つだろう。多くの店では余った食料を慈善団体に寄付している。またイギリスでは、食料品業界が無駄を 20% 減らすための政府の働きかけが進行中である。

小計

番号:

氏名：

## I(続き)

(自分の意見) \* この次の行から書き始めること。

## 正答例省略

小計	
總計	

